

科目名		テーマ		
情報社会と倫理		情報社会の特徴、情報化が社会に与える影響および情報モラルについて学ぶ		
担当者名	配当年次	単位数	学科	選択・必修 / 指定科目
福迫昌之	2	2	経済情報学科	選択 / 教職課程科目 (情報)

[授業の内容・到達目標]

[授業内容]

情報通信ネットワーク社会の進展はIT、マルチメディア技術の発達と普及によるものであり、近年インターネットの電子メールやワールドワイドウェブ、各種の携帯情報端末や携帯通信機器、多チャンネルテレビといったデジタルメディアが、社会のあらゆる場面に頻繁に登場するようになった。私達の生活のあらゆる分野にITが関わってきており、将来ITや情報関連産業に直接携わる者はとくに、そうでない者も、情報ネットワークに関連して必要な技能、知識、素養は、技術面に限定されるべきではなく、社会との関係を常に意識しながら仕事を進めていかなければならない。本講義では、ICTの基本的理論、情報化と社会の動向、ICT利用の現状、情報モラルさらに専門的課題に関して、基本的に理解しておくべき事項について、具体例を挙げながら、説明する。講義内容は情報社会の理解のための基本理論が中心なので、より具体的な事項については、他の講義や演習で得た技術的知識と関連させ、さらに理解を深めて欲しい。

[到達目標]

情報社会の基本用語について理解する。また、経済・社会という観点から情報社会の特質と問題について理解することを目標とする。

情報社会における倫理的な問題、ネット犯罪等についてその背景と課題について理解できるようになる。

[授業方法]

講義は教科書に沿って行うので、毎回出席し、板書についてはノートをきちんと取ること。講義の内容は多岐に渡るが、丁寧に説明するので、ノートを取るだけでなく、その意味する内容を考えながら聞くようにすることが必要である。ビデオ等必要な教材も適宜使用する。講義内容は系統立っているため、毎回出席することが肝心となる。試験前にノートを見直し、復習すること。講義内容に関連して、事前・事後学習のために宿題として適宜レポートを課すことがある。

とくに受講者多数の要望もあり、講義に集中できる環境を維持するために、原則として20分以上の遅刻・移動は認めない（施錠などの措置を取ることもある）。出席は毎回とるが、出席を兼ねて時間内レポートを適宜実施する。

[成績評価の方法]

期末試験（70%）と時間内レポート（30%）の合計（100%）で評価を行う。

試験には自筆ノートのみ持込み可なので、ノートを整理して臨むこと。

時間内レポートは6回実施予定。講義の進展状況により、課題レポートや事前・事後レポートに換えることがある。出席点は原則として評価点数に加算しない。

[テキスト]

[参考文献]

	三野裕之『デジタルメディア概論』ムイスリ出版、2003年 伊藤守・林利隆・正村俊之編『情報秩序の構築』早稲田大学出版部、2004年。 梅棹忠夫『情報の文明学』中公文庫、1999年。
--	--

[履修上の注意・その他]

「情報メディア」と併せて受講することが望ましい。質問等は、講義終了後等の時間を利用して、積極的に行って下さい。E-mailでも受け付けます (fukusaku@tonichi-kokusai-u.ac.jp)。

[授 業 計 画]

実施回	内 容
1	イントロダクション 情報化、情報ネットワーク、ICT についての基本的な認識、講義の進め方について。
2	テーマ：情報化と社会の動向 1 ネットワーク社会について
3	テーマ：情報化と社会の動向 2 情報ネットワークと市民社会の変容について
4	テーマ：情報化と社会の動向 3 情報社会論の系譜について
5	テーマ：情報化と社会の動向 4 マルチメディア市場と情報産業の動向について
6	テーマ：情報化と社会の動向 5 メディアリテラシーとネチケットについて
7	テーマ：情報化と社会の動向 6 情報ネットワークインフラと、産業社会の展開について
8	テーマ：情報化と社会の動向 7 情報ネットワークの国際化について
9	テーマ：IT 利用の現状 1 企業活動と情報ネットワークについて
10	テーマ：IT 利用の現状 2 市民生活におけるマルチメディア利用の実態について
11	テーマ：情報モラル 1 情報化の進展に伴う問題や犯罪の現状について
12	テーマ：情報モラル 2 情報ネットワークと知的所有権について
13	テーマ：情報モラル 3 IT と権利処理の実態について
14	テーマ：情報モラル 4 情報ネットワークと社会倫理（表現の自由）について
15	テーマ：情報社会の課題 ICT の最新状況と今後の課題について

